

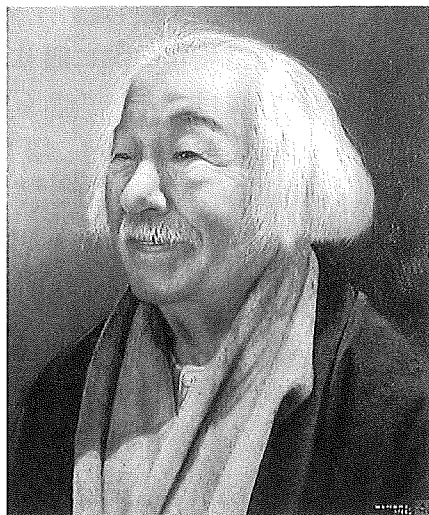
# 第35回蘇峰会静岡県書道展

## 開催要項

本書道展は公益財団法人蘇峰会が徳富蘇峰先生の偉業を顕彰し、あわせて青少年の健全育成を図り、また書道の発展に寄与することを目的に毎年開催しているものです。徳富蘇峰先生は江戸末期の文久3年（1863）に熊本に生まれ、昭和32年（1957）に95歳でその生涯を終わるまで、明治・大正・昭和の3代にわたって先覚ジャーナリストとして活躍されました。

その足跡をたどりますと、明治20年に「国民の友」を創刊、同23年には国民新聞社を創立、社長兼主筆として健筆を振られました。昭和18年には幾多の功績によって文化勲章を授与されました。先生の全百巻からなる『近世日本国民史』は不朽の名著です。

先生は静岡県とも深い関わりを持たれており、熱海の晩晴草堂にて天寿を全うされました。その薫陶を受けた方々も多く、その人たちを中心に蘇峰会が結成され今日に至っております。



徳富蘇峰翁

- 主 催／公益財団法人蘇峰会・静岡新聞社・静岡放送  
駿府博物館
- 後 援／静岡県・静岡県教育委員会・静岡市・静岡市教育委員会  
静岡県書道連盟
- 展覧会場／静岡市葵区紺屋町15-4 駿府博物館
- 会 期／平成24年3月20日（火）～3月25日（日）

# 〈応募要項〉

## (1) 応募資格

園児・小学生・中学生・高校生・大学生・一般で、県内に在住する方

## (2) 応募規定

### (イ) 園児・小・中・高校生の部

①毛筆で一人1点、大きさは半切画仙紙の4分の1

(縦68cm×横17cm)

②語句は指定語句に限ります

③作品には学年・氏名を記入して下さい

(園児および小1、2年生までは名前のみでも可)

④出品作品は原則として返却いたしません

### (ロ) 大学生・一般の部

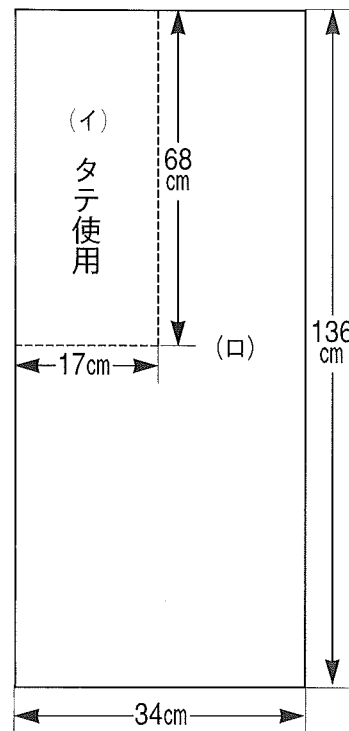
①毛筆で一人1点、大きさは半切画仙紙(縦136cm×横34cm)

②表装・仮表装・裏打ちはしないで下さい

③語句は指定語句の中から、自由に選んで下さい

④作品の返却希望者は、出品目録に『返却希望』と明記して下さい

(“着払い”で返送します)



## ◆ 共通事項 (園児～一般)

①代表者は必ず出品目録(別紙)を作成し、作品とともに提出して下さい。個人で出品される場合も同様とします

②作品裏側に氏名(フリガナ)を楷書で必ず明記して下さい(鉛筆書きのこと)

③出品作品の搬入は出品者の責任で行って下さい(郵送可)

### (ハ) 上記規定外の作品は失格とします

(ニ) 出品料 ※園児・小・中・高校生……………200円

※大学生・一般……………500円

作品に出品料を添え、直接または郵送(宅配便)で書道展事務局に納入して下さい  
切手での納入はお断わりします

(ホ) 募集受付期間 平成24年1月25日(水)～31日(火)(当日消印有効)

(ヘ) 応募先(問い合わせ先)

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町15-4 静岡新聞SBS紺屋町別館

蘇峰会静岡県書道展事務局 ☎054-252-0113 (9:00～17:00)

### (3) 審 査

審査は静岡県書道連盟に委嘱します

### (4) 入賞発表

平成24年2月中旬 静岡新聞朝刊紙上で発表します

(ただし、優秀賞は後日、賞状の発送をもって発表に代えさせていただきます)

### (5) 表 彰 式

平成24年3月25日(日) 静岡 新聞放送会館18階「蘇峰ホール」

(場所は静岡市駿河区登呂3丁目1-1 静岡新聞社)

※表彰式への出席は、会場の関係で奨励賞以上の方に限定します

### (6) 賞

徳富蘇峰賞	6点
静岡県知事賞	1点
静岡市長賞	1点
静岡県教育委員会教育長賞	3点
静岡市教育長賞	3点
蘇峰会賞	5点
静岡新聞社・静岡放送社長賞	5点
駿府博物館長賞	5点
静岡県書道連盟会長賞	5点
静岡県書道連盟賞	7点
審査委員会賞	7点
奨励賞	7点
優秀賞	全作品の10%相当

※出品者全員に参加賞をさしあげます

(7)指定語句

園児	よいこ
小学 1	あさひ
2	はねつき
3	おとし玉
4	明るい年
5	光る大地
6	夢と希望
中学 1	元日の富士
2	新年の決意
3	白砂青松海
高校	萬物生光輝 (1年～3年共通・書体自由)
一般(大学生)	
① 樹頭風瀉無窮水	天末雲移不定山 (徳富蘇峰 (駿府博物館所蔵))
② 人閑桂花落	夜靜春山空 月出驚山鳥 時鳴春澗中
③ 晴れてよし曇りてもよし富士の山	もとの姿は 變らざりけり (徳富蘇峰)
④ 夜には降り晝に晴れつつ富士が嶺の高嶺の	深雪かがやけるかも (若山牧水)

●高校と一般の部の指定語句の「読み」と「意味」

高校〔読み〕 万物 光輝を生ず

〔意味〕 春となり 万物が生き生きとなった

一般

①〔読み〕

樹頭の風は無窮の水をそそぎ、天末の雲は不定の山を移す

〔意味〕

木の頂を吹く風は尽きることのない水を辺りにそそぎしたたらせる。空の裾の辺の雲はあちらこちらと山が動くように変化に富んでみえる。

②〔読み〕

人 閑にして桂花落つ  
夜 靜にして春山空し  
月出でて山鳥を驚かす  
時に鳴く 春澗の中

〔意味〕

人はのんびりと桂花の散るのに対し、夜は靜かに春山はひっそりしている。月が出て寝ていた山鳥を驚かしたのでろう。時々春の谷川に山鳥の鳴くのがきこえる。

④〔読み〕

よにはふりひるははれつつふじがねのたかねのみゆきかがやけるかも

〔意味〕

夜には雪が降っても昼間はだんだん晴れ渡ってきて、富士の高嶺に降り積もった白雪が、輝いて見える。